

# 憲法しんぶん 速報版

発行 憲法改悪阻止各界連絡会議 (憲法会議)

Eメール mail@kenpoukaigi.gr.jp TEL03-3261-9007  
ホームページ http://www.kenpoukaigi.gr.jp FAX03-3261-5453

2024年5月9日(木)  
NO. 1475号  
本号3頁

## 参院憲法審 公明の衆院と参院の意見の違い、明確に！

参院憲法審査会は今国会で2回目の審査会を開催し、1回目の4月10日は幹事選任の事務手続きを行いましたので、今回が初めての実質審議となりました。テーマは、「日本国憲法に対する考え・意見の表明」で、はじめに各党会派が意見を述べ、その後、希望する委員が意見を述べました。

冒頭、与党筆頭幹事の佐藤正久氏(自民党)が、首都直下地震や南海トラフ巨大地震など大規模な自然災害の発生などを想定した対応が急がれる中、憲法で参議院に与えられている重要な権能の一つの緊急集会について考えを明確にする必要があると述べました。過去2度、緊急集会を開催したと語り、「内閣から求められた時に役割を果たせるよう早急に議論を深めるべきだ」と述べました。

野党筆頭幹事の辻元清美氏(立憲民主党)は、自民党の4.5人に1人が裏金事件にかかわっており、汚れた手で権力の行使を行っているとして厳しく批判。「憲法論議を進めるにあたり最も大事なことは政治への国民の信頼だ。現在の政治は自民党の『裏金事件』によって信頼が大きく毀損している。自民党議員に、国民から権力の行使を預かる議員が守らなければならない規範を変える資格があるのか」と述べました。そして、憲法審査会の課題として、国民投票法の改正の必要性を訴えました。

公明党の西田実仁氏は、参議院の緊急集会と、衆院憲法審査会で議論されている緊急事態時の議員人延長のどちらが重要かと問いかけ、緊急事態時の国会議員任期延長に関し「なぜ繰り延べ投票では駄目なのか。議論を深める必要がある」と指摘。参院議員の任期延長は不要とも述べました。この発言は、改めて衆院公明側と参院公明側の意見が明確に違っていることを示しました。改憲派は「まとまっている」と繰り返していますが、公明党内でもまとまっていない実態が明確となりました。

審査会では、来週、憲法で規定されている参議院の緊急集会をめぐる意見を交わすことになりました。

## 憲法記念日 各地で「戦争する国」に戻さないと集会やデモ等実施

### 宮城 若者に戦争の悲惨さ、9条の意義を伝えよう！ 700人が参加

宮城県では3日、「憲法を活かす県民集会」が仙台国際センターで開催され、700人の市民が参加しました。主催者を代表して宮城憲法会議の鹿又喜治代表委員があいさつし、9条を守ろうとする人がある限り、安保3文書の閣議決定でも9条は死んでいないと指摘し、「集会を9条による平和を考える機会にしたい」と訴えました。



防衛ジャーナリストの斉藤光政氏が講演し、岸田政権の軍拡・基地の強化は、中国・ロシアと主要7ヵ国(G7)の対立が原因だと指摘。アメリカの大学で起きているイスラエルのガザ攻撃に反対する行動を示し、

「日本にその健全性があるか。若者に戦争の悲惨さ、9条の意義を伝える必要がある」と訴えました。

集会後、参加者は五月晴れの下、「軍事費削って社会保障の充実を」「憲法を変えずに政治を変えよう」と訴えながら、連休でにぎわう市内中心部をデモ行進しました。

### 茨城 「人間の起こす戦争は人間の力で止める」とのアピール

水戸市の千波公園で「憲法フェスティバル」が開催され、800人が参加しました。主催者あいさつで、田村武夫茨城大学名誉教授は、戦争に突き進む岸田政権を批判。先の衆院3補選の勝利に触れ、「茨城からも自民党政治を断罪しよう」と呼びかけました。能登半島地震から憲法を考える企画や、福島視察ツアー報告感想交流など、テント企画も開催されました。

望月衣塑子・東京新聞記者が記念講演し、「憲法9条を持ちながら、最新の殺傷能力をもつ武器輸出を進める岸田政権。軍拡の先にあるのはアメリカの戦争に巻き込まれること。政権に追従するメディアであってはならない。市民の声が大きな力となる。戦争しない国づくりへ政権交代しかない」と力説しました。

参加者は「災害に強い日本こそ憲法をいかす道。人間の起こす戦争は人間の力で止める」とのアピールを採択しました。

## **新潟** 政治を変えようと 8 野党が訴える

9 条改憲 NO! 全国市民アクション@新潟は 3 日、新潟市で「5・3 憲法記念日行動」を実施し、170 人以上の参加者が横断幕やプラカードを掲げました。

立憲民主党、日本共産党、無社会民主党、新社会党、緑・新潟の各党代表ら 8 人がマイクを握り「憲法を生かした平和と暮らし応援の日本を」と訴え、多くの買い物客らが足を止めました。市民連合の佐々木寛共同代表は、法律を守らず私利私欲に走る国会議員が憲法を壊そうとしていると批判。5 年で 43 兆円の軍事費や米軍と一緒に戦う約束の一方で、社会保障や暮らしを削るため、衆院 3 補選が示した「立憲野党の結集が政治を変える唯一の道」を進もうと呼びかけました。

立憲の米山隆一衆院議員は、憲法は暴走政治を止める力であり、自民党の改憲を止めようと訴え。共産党の武田勝利新潟仕着せは、憲法 9 条にもとづく対話で東アジアに平和をと訴えました。

## **神奈川** 「神奈川憲法会議 5・3 県民のつどい」が開かれ、約 600 人が参加

横浜市西区の県立青少年センターで 3 日、「神奈川憲法会議 5・3 県民のつどい」が開かれ、約 6000 人が参加しました。

武蔵野美術大学教授の志田陽子さんが「平和の危機と『表現の自由』～人権保障こそが安全保障」をテーマに講演しました。志田氏は「『憲法 9 条は死んだ』と述べる識者もいるが、学者や政治家が自分の考えだけで『死んだ』などと言う資格はない。法に死亡宣言をしていいのは主権者だけだ」と述べました。さらに、「国民・住民のための安全保障を考えるなら、外国人を含めすべての人間に保障されるべき『人権』を保障することだ」「憲法 12 条には、自由や権利は国民の不断の努力によって保持しなければならないとある。表現の自由を大事にして、言いたいことをどんどん言おう。次の世代に自由を狭めずに手渡すため、私たちは自由であることが責任だ」と語りました。

自由法曹団神奈川支部の海渡双葉弁護士が「セキュリティ・クリアランス 広がる秘密保護の網」について講演しました。集会後にデモ行進しました。

## **広島** 再び戦争の惨禍が起こることのないように、運動を力強く進めよう！

「戦争させない・9 条壊すな！ヒロシマ総がかり行動実行委員会」主催の「5・3 ヒロシマ憲法集会」が 3 日、広島市の弁護士会館で開かれました。オンライン含め 450 人が参加。「政府の行為によって再び戦争の惨禍が起こることのないように、(同) 運動を力強く進めよう」とする集会決議を拍手で採択しました。

共同代表の山田延廣弁護士は、開会あいさつで、改憲に固執し軍拡に突き進む岸田政権を厳しく批判。不条理に対しては「たたかわんといけん」と運動の重要性を訴えました。

ジャーナリストで和光大学名誉教授の竹信三恵子氏が講演。家制度を根幹にした戦前の日本では、国家予算の 8 割近くをも占める軍事費確保のため保育や教育、医療などの社会保障費を削っていたと指摘。「こうした事態への反省から憲法 9 条が生まれた」にもかかわらず、国が再び家制度に固執し、国民生活を軍拡によって破壊しようとしていることに警鐘を鳴らしました。

## **奈良** 「平和じゃないと笑えないっ！」と題して落語とトークセッション

奈良県の「憲法の日」実行委員会は 3 日、奈良市で「平和じゃないと笑えないっ！」と題して落語とトークセッションで憲法を考える企画を開催しました。

落語家の立川談四楼さんが、15 万 3 千人のフォロワーがいる X (旧ツイッター) で政治の話題を投稿し、自公、維新を批判しているとのべ、落語「一文笛」を披露しました。

若者 4 人のトークセッションで奈良女子大の学生は、奈良教育大にある戦争遺跡の学習などを報告。平和活動家の女性は広島、長崎の被爆者とともに 25 カ国で証言活動に参加したと話しました。香芝市の女性は小学校統廃合が議会で決議され、子どもたちの学校と権利を守ろうと立ち上がったと語りました。

司会の田村隆幸さん(市民ひろばなら小草理事長)が「自分のできることをやって改憲を阻止しよう」と呼びかけました。シンガーの一二三(ひふみ)礼さんがピアノ弾き語り、奈良蟻の会合唱団が憲法にちなんだ歌を披露しました。

## **京都** 生かそう憲法 守ろう 9 条 憲法集会 2000 人が参加

憲法 9 条京都の会と「9 条改憲 NO! 全国市民アクション・京都」の共催で 3 日、「生かそう憲法 守ろう 9 条」を掲げた憲法集会が開かれ、会場の円山公園音楽堂には満席の 2000 人が集まりました。

石川康宏神戸女学院大学名誉教授が「明日、となりの人に話したくなる平和の話」と題して講演。岸田首相が進める軍拡・武器輸出について「軍拡で安保環境は良くなったか？」と問いかけ、「軍拡で相手を刺激し、かえって危険度が増えただけ」と指摘。軍事に頼らない東南アジア諸国連合(ASEAN)の外交努力が実を結んでいることにも触れ、9 条を生かした外交努力こそ必要だと訴えました。

日本共産党の井上哲士参院議員をはじめ社民、新社会、れいわ代表があいさつ。祝園弾薬庫問題を考える会など地域・団体が取り組みを報告しました。

集会後、参加者は観光客でにぎわう繁華街をデモ行進しました。

## **改憲派集会開催、国民投票実施の改憲原案起草に意欲を示す**

3日、改憲論議を推進する与野党幹部らは『21世紀の日本と憲法』有識者懇談会（民間憲法臨調）などが開いた集会に出席し、国民投票実施の前提となる改憲原案起草に意欲を示しました。岸田首相が掲げる今年9月の自民党総裁任期満了までの改憲実現が日程的に厳しさを増す中、同会代表でジャーナリストの櫻井よしこ氏は「自民党が頑張るとき」と叱咤激励しました。

「政治の信頼回復のためにも、政治改革の議論と併せて、憲法改正という重要課題について、党派を超えて連携しながら、真摯に議論を行う姿を国民にお見せしていきたい」

首相は集会に寄せたビデオメッセージで、自民派閥の政治資金問題について陳謝した上で、改憲を自民の最重要課題と位置付けました。

改憲原案の起草を担う国会の憲法審査会では、大規模自然災害や有事に対応するための緊急事態条項の新設に関する議論が進んでいます。衆院憲法審では大型連休明けに、緊急時における国会議員の任期延長に関する具体的な条文の作成に向けて動き出せるかが焦点となっています。

櫻井氏は集会で、首相の発言について「政治家です。一国の宰相です。この言葉を信じないで、どうやって政治を動かしていくのか、支持していくのか」と迫りました。

また、首相の退任後を仮定して、次期首相として世論の人気がある石破茂元幹事長、河野太郎デジタル相、小泉進次郎元環境相ら「小石河連合」を引き合いに出し、「憲法改正をやり遂げるとは思えない」と指摘。「岸田さんの背中を押して、国民の力でいやおうなく政治家が憲法改正に走っていかなければならないような世論を作ってまいりましょう」と訴えました。

この日、集会には改憲論議を推進する自民や公明党、日本維新の会、国民民主党の国会議員が出席し、改めて改憲の意欲を示しました。

自民憲法改正実現本部の古屋圭司本部長は「(改憲草案を)取りまとめるべき時期」にきているとし、国民投票を早期に実施すべきと言及。条文化作業に後ろ向きな立憲民主党を念頭に、憲法審で改憲草案の起草作業が進まない現状を「発議権を有する立法府の不作为」と述べました。

公明党の大口善徳氏も、緊急時の国会議員の任期延長のための改憲は「(議論は)煮詰まっている。国会機能維持のための憲法改正は待ったなし」と発言。日本維新の会と国民民主党からは、国民投票実施に向けた具体的な日程を詰めるべきとの意見が上がりました。維新の小野泰輔氏は「時間を区切って、ちゃんと結論を出していくというのが当たり前だ」と指摘。この日、首相がビデオメッセージで憲法改正を「先送りのできない課題」と発言したことに対して、「ここまでおっしゃったのだからぜひやっていただきたい」と求めました。国民民主党の玉木雄一郎代表も「具体的なお尻を切ってやらないと結果は出ない。しっかりと緊急事態条項については前に進める必要がある」と述べ、自民に対して、改憲実現に向けた現実的な進め方を議論すべきと強調しました。

## **NHK 世論調査 内閣支持 2ポイント減 23%、不支持 58%**

岸田内閣を「支持する」と答えた人は3月の調査より2ポイント下がって23%でした。一方、「支持しない」と答えた人は1ポイント上がって58%でした。岸田内閣の支持率は23%で、内閣発足以降で最も低かった去年12月の支持率と並びました。

各党の支持率は、「自民党」が28.4%、「立憲民主党」が6.5%、「日本維新の会」が4.7%、「公明党」が4.0%、「共産党」が2.4%、「国民民主党」が1.5%、「れいわ新選組」が1.7%、「社民党」が0.5%、「参政党」が0.5%、「みんなで作る党」が0.1%、「特に支持している政党はない」が41.3%でした。4月の自民党の政党支持率は28.4%でした。自民党の政権復帰後で自民党の政党支持率が30%を下回ったのはいずれも岸田内閣で、去年12月の29.5%、3月の28.6%に続き3度目です。

自民党は、派閥の政治資金パーティーをめぐる問題に関係した議員ら85人のうち、39人を処分の対象としました。これに納得できるか尋ねたところ、「納得できる」が9%、「どちらかといえば納得できる」が20%、「どちらかといえば納得できない」が22%、「納得できない」が41%でした。

大阪・関西万博開幕までおよそ1年となった大阪・関西万博に関心があるか尋ねたところ、「とても関心がある」が7%、「ある程度関心がある」が24%、「あまり関心がない」が35%、「まったく関心がない」が27%でした。